

高取小だより

令和6年7月1日



三本桜

第12号

ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子
7月の目標：規則正しい生活をしよう

想いの詰まった合い（愛）言葉 「学年スローガン」

「会社」には、必ず企業理念や経営スローガンがあるように、「学校」にも経営理念があります。それが、高取小学校の教育目標「心豊かで、たくましく、実践力のある子どもを育てる -ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子-」です。そして、この教育目標を達成するために、めざす子ども像を「夢をもち、将来を豊かにたくましく拓く子ども」として、日々の教育活動を展開しています。130年以上の歴史ある本校において、いつ考えられた言葉なのでしょう。きっと、当時の教職員でたくさんの時間をかけて考え、子どもたちや保護者・地域の方と長い間、大切にしてきた言葉なのだろうと思いを馳せています。私たちは、この言葉を大切に、目の前の子どもたちと日々、向き合っています。

また本校では、4月の年度初めに、各学年が「学年スローガン」を設定し、各学級では「学級目標」を設定します。スローガンは、「この1年、こんな毎日を過ごしたい」「子どもたちの姿がこんなふうであってほしい、こんなふうになってほしい」・・・といった願いや合い言葉のようなものです。各学年のスローガンを以下に掲載します。

ひかり：きらめき 1年：わくわく 2年：にこにこ 3年：さんさん
4年：Sing a rainbow 5年：常笑気流
6年：BREAK THROUGH ~つなげ顔と絆のバトン~

子どもたちがこのスローガンの下、学習、休み時間、当番活動などの具体的な場面を経験し、成長を続けていけるように引き続きサポートをしていきます。

第41回少年の主張大会

6月23日（日）、たかびあホールにて少年の主張大会が開催されました。本校からは、6年生 SNさんが発表をしました。堂々としていて、とても立派でした。以下に、その内容を掲載します。

わたしのよう、わたしらしく SN

「何に出会い、何を学べるかが楽しみだな。」

わたしが、こう思うのは、成功に近づく方法を見つけたからです。

その方法とは、失敗を経験することです。みなさんは失敗したことがありますか。成功に近づくためには、少し落ちこむこともあるけれど、失敗を経験することが大切です。わたしの二つの経験を話します。

以前、わたしには苦手な子がいました。その人のいやなところを友達に言っは、その子を悪者に見立てていました。わたしが思っていることが正しく感じられて、とても気分がよかったです。ある日、いやなところを言い続けていると、その子本人に伝わってしまいました。でも、最初は、知られたくらいでは何とも思わず、むしろ、相手も自分のことをいやだと思ってくれて都合がいいと思っていました。しかし、時間が経つにつれ、私は少しずつ周りからさげられたり、相手にされなくなったりしました。当然、その人からも名前と呼ばれることはありませんでした。きらわれてもいいやと思っていたけれど、実際にきらわれるのは、さみしかったしつらかったです。それでやっと、自分がしていたことがまちがっていることに気がきました。自分の思っていることをすべてだれかに聞かせてスッキリしていても、相手からしたらいやでたまらないだろうということに気づきました。だれかをいやな気持ちにさせるかもしれない、そう思い始めてから、わたしは人のいやなところを友達に言わなくなりました。

正直にすごいな、おもしろいなと思ったことは相手に伝え、何かしてもらったら「ありがとう」と伝えるように心がけていました。できるだけ人にやさしくすごしていたら、男女関係なく話せる相手が増えました。今では、毎日友達の家遊びに行くようになりました。うれしいような楽しいような、今まで感じなかった初めての感覚を感じることができました。

二つ目は、去年、習い事で習っているダンスをやめたことです。理由は、全然練習をしていなかったからです。保育園の年長のころからやっていて、ただの遊びや体力づくりのためだと思っていました。もともと体力のないわたしからしたら、基本のステップをずっと続けることすらつらく、他の子に追いつけなくなりました。うまくできないと全体の練習が止まって、周りから笑われているようにも感じました。

でも、それはただの言いわけでした。あらためて見ると、周りの子たちは、ダンスを毎日欠かさず練習をしていて、努力をしていて、この数年をダンスにかけているような子たちでした。わたしには、ダンスにすべてをかけるような気持ちはありませんでした。親が準備してくれた発表会の衣装だってそう安くはありません。みんなのがんばりと親のありがたみに気付いたのはダンスをやめてからでした。一緒に練習してくれた周りの子や親の期待を裏切ってしまったと思いました。

それからは、もうだれの期待を裏切らないよう、何事にも努力しました。学校の勉強の量を少し増やしたり、時間があればだれかを楽しませたりしました。自分がすきなことには、今まで以上に全力で取り組みました。自分のペースで自分なりに努力することが楽しいと感じるようになりました。あのとき、ダンスをやめてしまったのは、今思うと少しさみしいけれど、ダンスの技術はまだ残っています。自分なりの努力の仕方や楽しさを見つけることができました。

失敗をしたことがない人なんていないと思うし、わたしはこれからもきっと数え切れないほどの失敗をしたいと思います。でも、それは自分で自分のことを考えるきっかけをくれる大切な出会いだと思います。これからの出会いも楽しんでいきたいです、わたしのようにならしく。

